

司式 豊川修司引退教師

奏楽 門脇陽子長老

前 奏

開 会 招 詞 ヨハネ4：23-24

* 賛 美 歌 312：1,3 (教団讃美歌)

1. いつくしみ深き 友なるイエスは、罪とが憂いを とり去りたもう。こころの嘆きを 包まず述べて、などかは下ろさぬ、負える重荷を。

3. いつくしみ深き 友なるイエスは、かわらぬ愛もて 導きたもう。世の友われらを 棄て去るときも 祈りにこたえて、労わりたまわん。アーメン

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈禱書2 罪の告白①

かみ 神よ、わたしを憐れんでください。おんいつく 御慈しみをもって。ふか おんあわ 深い御憐れみをもって、そむ つみ 背きの罪をぬぐい去って ください。わたしのとが 咎をことごとく洗い、つみ 罪から清めてください。わたしはとがのうちに産み落とされ、 はは 母がわたしを身ごもったときも、わたしはつみ 罪のうちにあったのです。わたしをあら 洗ってください。ゆき よりも 白くなるように。神よ、わたしの内に清い心を創造し、新しく確かな霊をさずけてください。救いの喜び をふたたびわたしに味わわせ、じゆう 自由の霊によって支えてください。主よ、わたしのくちびる ひら 開いてください。この 口は、あなたのさんび 賛美を歌います。 しゆ いえす きりすと みな 主イエス・キリストの御名によって。アーメン。 (詩編51)

罪の赦しの宣言

十 戒 祈禱書4

- あなたは、わたしのほかに、なにもの かみ 何者をも神としてはならない。
- あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
- あなたは、あなたのかみ しゆ な 神、主の名を、みだりにとな 唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
- 安息日をおぼえて、これをせい 聖とせよ。
- あなたの父と母を敬え。
- あなたは殺してはならない。
- あなたは姦淫してはならない。
- あなたは盗んではならない。
- あなたは隣人について偽証してはならない。
- あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。 (出エジプト20、申命記5)

* 賛 美 歌 239：1,3

1. さまよう人々 たちかえりて あめなる御国の 父を見よや 罪とがくやめる ころこそは 父より与うる たまものなれ。

3. さまよう人々 たちかえりて 主イエスの御許に とくひれふせ わが主は憐れみ み手をのべて こぼるる涙を拭いたまわん アーメン

共同の祈禱 5 使徒信条

われはてんち 天地の造り主、ぬし ぜん のう ちち 全能の父なる神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主イエス・キリストを信ず。主は、聖霊によりて宿り、おとめマリアより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみをうけ、十字架につけられ、死にて葬られ、よみに降り、三日目に死人のうちよりよみがえり、天に昇り、全能の父なる神の右に座したまえり。かしこより来たりて、生ける者と死ねる者とを審きたまわん。
われは聖霊を信ず。聖なる公同の教会、聖徒のまじわり、罪の赦し、からだのよみがえり、としへの命を信ず。 アーメン。

献 金 (黒) 教会活動・(赤) 東部中会修養会 70

今献ぐるそなえものを 主よ 清めて受けたまえ アーメン

(こひつじ科夏季特別プログラム)

聖書朗読 エゼキエル34章11-16節(旧約 p.1352)

ルカによる福音書15章1-7節(新約 p.138)

説教・祈祷 「迷える羊を探し求める神の愛」 豊川修司代理牧師 (新座志木)

* 賛美歌 247:1-3

1. 檻をはなれ、こころのままさまよう羊と なれはなりぬ、親にさかろう 子のごとくに、恵みを忘れて 家をすてぬ。

2. わがかいぬし 主イエス君は、岩山、荒野を 洩れずたずね、飢えつかれし こひつじをば、いたわり抱きてかえりたもう。

3. そのみめぐみ、いかにふかき、仇よりわが身を あがない来て、檻にかえし、朝なゆうなに、嘯ませたもう そのうれしさ。

* 主の祈り 祈祷書1

天にまします我らの父よ

願わくは御名をあがめさせたまえ

御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ

我らの日用の糧を 今日も与えたまえ

我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ

我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ

国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

* 頌 栄 67 (ソングシート)

主イエスのめぐみよ、ちちのあいよ、みたまのちからよ、あみさかえよ。アーメン

* 祝 禱

後 奏 (黙禱)

報 告 雨宮信長老 (司会・受付 次週：古澤兵庫長老)

本日 受付 1階：星野房子・森永美保執事 2階：那珂信之執事 / ZOOMホスト・録音：森川莞太

次週 受付 1階：加藤良明・若月学執事 2階：森永美保執事 / ZOOMホスト・録音：門脇光生

※ 2グループ制により、長老も1階と2階に一名ずつ加わります。

上福岡教会 2022年7月31日(日)礼拝説教

説教 「迷える羊を探し求める神の愛」

聖書 旧約聖書 エゼキエル書34章11~16節(p1352)

新約聖書 ルカによる福音書15章1~7節(p138)

序論.

(1)本日の説教主旨

教会がこの社会に存在する理由は何でしょうか。それは聖書に書かれた主イエス・キリストの福音をこの社会に伝え、教会に来られた方々をキリストに結びつけることです。そしてその方々の人生を 180 度転換して、新たに生きる力と希望を与えることです。

(2)説教の中心

そこで、今日の説教の中心は、神様はどのようにして「迷える羊を探し求める」のでしょうかという課題です。旧約聖書にあるエゼキエル書と新約聖書にあるルカによる福音書から、迷える羊を探し出す状況を見てみましょう。

実に詳しく描かれています。迷える羊を探す方は聖書の神様であり、主イエス・キリストです。迷える羊を発見した方の気持ちがヨハネによる福音書6章39節、40節(p 175)に書かれています。

「わたしをお遣わしになった方のみ心とは、わたしに与えてくださった人を一人も失わないで、終わりの日に復活させることである。わたしの父のみ心とは、子を見て信じる者が皆永遠の命を得ることであり、わたしがその人を終わりの日に復活させることだからである。」

このみ言葉から、神様の心の思い(または神様のご計画といいます)とは、1神様が主イエスに与えた人(迷える羊)を一人も失わないで、終わりの日に復活させる

ことです。2神の御心は、子(主イエス)を信じて、永遠の命を得ることです。そして、主イエスが

人を終わりの日に復活させることです。

本論 1.旧約聖書における羊飼い⇒エゼキエル 34 章 11 節~15 節(p1352 頁)

(1)旧約聖書における羊飼い

エゼキエルという人は、今から 2800 年前位に神様の言葉を語る預言者として活躍した

人物です。神様は、ご自分の愛するイエラエルが神様を拝まず、偶像を拝んだので、神様の怒りをかい、敵の国であるバビロン帝国を用いて、イスラエル民族をバビロンという国に捕囚したのです。エゼキエルも捕囚になった一人です。

先ほど読みましたエゼキエル書 34 章 11 節~16 節(p1352)を、みなさんと一緒に 味わいながら、 ゆっくり読んでみましょう。

「まことに、主なる神はこう言われる。見よ、わたしは自ら自分の群れを探し出し、彼らの世話をする。牧者が、自分の羊がちりぢりになっているときに、その群れを探るように、わたしは自分の羊を探す。

わたしは雲と密雲の日に散らされた群れを、すべての場所から救い出す。わたしは彼らを諸国の民の中から連れ出し、諸国から集めて彼らの土地に導く。わたしはイスラエルの山々、谷間、また居住地で彼らを養う。わたしは良い牧草地で彼らを養う。イスラエルの高い山々は彼らの牧場となる。彼らはイスラエルの山々で憩い、良い牧場と肥沃な牧草地で養われる。わたしがわたしの群れを養い、憩わせる、と主なる神は言われる。わたしは失われたものを尋ね求め、追われたものを連れ戻し、傷ついたものを包み、弱ったものを強くする。しかし、肥えたものと強いものを滅ぼす。わたしは公平をもって彼らを養う。」

羊飼いである神様は、羊を探すためにでかけ、探し出し、連れ戻し、良い土地に導き、彼らを養わない、憩わせるのです。羊飼いは、わたしは失われたものを尋ね求め、追われたものを連れ戻し、傷ついたものを包み、弱ったものを強くする。

まさにこの姿こそ教会の存在の目的であり、教会の牧師の務めです。

本論 2.新約聖書の羊飼い⇒ルカ 15 章 1 節~7 節(新約p138)

(1)ルカ15章1節~7節の話

次に、ルカ福音書 15 章の「見失った羊」のたとえ話をみてみましょう。この物語はとて

も有名です。わずか7節の間に主イエス。キリストのストーリーが網羅されています。4節~6節を読んでみましょう。それでは一緒に読んでみましょう。

「あなたがたの中に、百匹の羊を持っている人がいて、その一匹を見失ったとすれば、九十九匹を野原に残して、見失った一匹を見つけ出すまで捜し回らないだろうか。そして、見つけたら、喜んでその羊を担いで、家に帰り、友達や近所の人々を呼び集

めて、『見失った羊を見つけたので、一緒に喜んでください』と言うであろう。」

百匹の羊の中で、一匹がいなくなったとうのですね。そこで羊飼いは、99匹を野原に残して、いなくなった1匹を探し求めて出かけて行くのです。どうして羊はいなくなったのでしょうか。

<羊が迷い出てしまった理由> 羊は、集団で行動する動物です。多分、目の前に広がる美味しそうな牧草に気を取られているうちに(あたかもこの世に心を奪われるようにわたしたちのように)、群れから離れてしまい、羊飼いの声が届かないところまで遠く離れてしまったのだと思います。このことに気付いた時にはもう自力で帰ることができず、羊飼いを求めて泣くばかりです。

(2)迷った羊を探し出す主イエス

羊を探し出す順序は次のとおりです。1迷い出た羊を探しに出かける、2羊を探し回る、3羊を見つける、4羊を連れ戻す、5一緒に喜ぶということです。ついに見失った羊を連れもどすのです。見つけ出すまで捜し歩く主イエスの姿が映し出されています。

1 見失った羊とは

見失った羊とはただいなくなっただけのことではないのです。見失うとは、滅びるとか、消え去るとか、命を失うとか、存在という根源的な問題なのです。そして、一度、失ってしまえば、取り返しのつかない財産や命、存在の問題なのです。別の言葉でいえば、聖書の神様から心が遠く離れていることです。人生において、このような羊を探し出すのは神様であり主イエス・キリストです。

2 探し回る

ルカ 19:10 節(p146)には「人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである」という言葉があります。主イエスは偶然に見つけるのではなく、野山、荒れ野を駆け巡りながら探す、熱心に探し続けるのです。

3 見つけて一緒に喜ぶ

見失った羊を見つけるのは、羊自身が羊飼いを見つけるわけではありません。羊飼いである主イエス自らが声を出して、探した結果見つけたのです。失ったものを見つけ出す喜びを、羊飼いは記しています。

『家に帰り、友達や近所の人々を呼び集めて、『見失った羊を見つけたので、一緒に喜んでください』と言うであろう。』これこそ福音です。

話は少しそれますが、今の時代、教会で一番嬉しいことは洗礼者が与えられることです。特にコロナ禍というきびしい中でも、迷っていた羊を探し出すのは洗礼です。洗礼は教会全体に与えられる大きな喜びです。洗礼を受けたいと望んでおられる方は、是非、杉山牧師にお申してください。いつからでも聖書の学びを開始してくれると思います。

(洗礼者を生み出す伝道の実践的事例研究—種まきから実りを刈り取るまで—参照)

(話を戻します。)

(3)失った羊とは、わたしたち人間のこと。

もし、わたしたちが、日常生活のことに目を奪われ、本来いるべきところから離れていることに気づかなかつたらどうなるのでしょうか。人生の夕暮れ(高齢)が近づいているのに、羊飼いの呼ぶ声に聴こうとしないならば、それは失われた人生であり、空虚な人生であるといえます。自分では良い人生だった、と思って満足しても、実は、聖書からみますとそれは空虚な人生でしかないのです。どんな惨めな思いをするのでしょうか。

本論3.迷える羊のメッセージ

エゼキエル書とルカによる福音書から羊を探すメッセージをみてみましょう。

(1)神の愛と熱心

何よりも、見失った羊であるわたしたちに対する**神様の愛と熱心**に感謝をせずにはいられません。神様は主イエスを通して新しい方々を起こしてくださいます。その方が、今日の礼拝を続け、

主イエスを信じるようになれば、これ以上の喜びはありません。神様は一人一人をご存知です。私たちが神様を知る前に、神様の方から主イエスを通して神様を知るようにしてくださいませ。
ヨハネの手紙一 4章10節(新約 p445)を読んでみましょう。

「わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。」

わたしたちが神様をみつけたのではありません。神様の方からわたしたちを探し、見つけ出してくださったのです。神様の愛を他に、わたしたちが救われる道はありません。

(2)悔い改め

神様に見つけ出されるということは、別の言葉で言えば、生き方を「転向する」とか、悔い改めといいます。今まで、神様から遠く離れて、自分一人で大丈夫と思っていた生き方から 180 度転換する生方です。

聖書は、ルカ 15章7節(p138)で次のように語っています。

「言っておくが、このように、悔い改める一人の罪人については、悔い改める必要のない九十九人の正しい人についてよりも大きな喜びが天にある。」

すなわち、悔い改めとは迷える羊がキリストのもとに帰ることです。私たちの人生で、教会を知ってキリストの福音を聞き、主イエスを信じる人生に転換することです。主イエスが喜んだのは、迷っていた羊が主イエスのもとに立ち帰ったことです。何よりも遥かに大きな喜びが天にあると聖書は語ります。

一方、残っていた99匹の羊とは、キリストに立ち帰らない偽善者たちを表しています。ここでは、ファリサイ派や律法学者の人たちを指しています、

(3)この世で迷うことがしばしばある

でも、実際、迷っていたわたしたちが、教会を知って見出された者になっても、もうそれで生涯何の苦しみや試練はないのでしょうか。決してそうではありません。皆さんも悩み苦しみ、模索しながら生きていますね。

それでも、洗礼を受けて、クリスチャンになった人は、神様の恵みによって、神様の子どもにされて、迷って人生をおくることは無いのです。安心して聖書の神様と主イエス・キリストを信じてください。

本論4 み言葉の摘要⇒経験をとおして

(1)自分だけ信仰を持つと、家族はどうなるのか。

家族の中で自分一人だけが信仰を持っているという方は多いと思います。果たして自分だけ救われていいのだろうか、という疑問は日に日に膨らんでいきます。それでも家族が時を経て、救われ

る時が訪れることを信じることです。神様は家族ひとりひとりを覚えていてくださいます。使徒言行録 16 章 30 節、31 節(新約p246)に家族全員が救われる記事があります。

「二人を外へ連れ出して言った。「先生方、救われるためにはどうすべきでしょうか。」二人は言った。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます。」

救われる時を待ち続けることが大切です。わたしの母は父が洗礼を受けるまで 45 年くらい祈り続けました。みなさん、諦めないで祈り続けましょう。

(2)信仰を持つと、試練は無くなり全て上手くいくのでしょうか。

クリスチャンになると試練はなくなり、すべてうまくいくのでしょうか。そんなことはありません。むしろ試練が増えたように思います。こんな時に、この世では元気にしようといろいろなサプリメントを提供しています。クリスチャンにとって本当に力が出るサプリメントは、聖書の御言葉です。コリント II 12:10(p340)には最強のサプリメントがあります。

「それゆえ、わたしは弱さ、侮辱、窮乏、迫害、そして行き詰まりの状態にあっても、キリストのために満足しています。なぜなら、わたしは弱いときにこそ強いからです。」

試練などにより弱くなる時があります。パウロはこのように「弱いときにこそ強い」と語っています。信仰によりより喜びが湧き出るからですね。みなさんもパウロのような経験を沢山していると思います。

(3)自分のことですが、2019 年 12 月 15 日、自分の不注意で脊髄圧迫骨折をしてしまいました。その後、あちらこちらの機能が低下しています。その影響かわかりませんが、変形性頸椎症といって首が 45 度くらいしか回らなくなりました。また、持病の狭心症で胸が激しく痛み救急車にお世話になりました。このような体ですが、心の内側は崩れることなく、元気に動いています。また、新座志木教会の代理牧師の働きをいただき、体力が許されるならば、80 才まで走り続けようと思っています。

このように人生はまさに旅路ですが、この旅路を力と希望を持って歩むことができるのはクリスチャンの喜びであり、神様の恵みです。

結論.

説教の冒頭で語りました。教会がこの社会に存在する理由は何でしょうか。それは初めに語ったように、聖書に書かれた主イエス・キリストの福音をこの社会に伝え、教会に来られた方々をキリストに結びつけることです。そしてその方々の人生を 180 度転換して、新たに生きる希望と力を与えることです。人生という旅路で教会との出会いがあったからこそ、豊かな人生であるといえるのではないでしょうか。

旧約聖書 コヘレトの手紙12章1節、2節(p1047)をお読みして説教を終わります。「青春の日々にこそ、お前の創造主に心を留めよ。苦しみの日々が来ないうちに。「年を重ねることに喜びはない」と言う年齢にならないうちに。」

どうか、いまこそ、神様と主イエス・キリストを信じる時であると認識していただきたいと思います。そして上福岡教会に通い続けて欲しいと願っています。

お祈り

父なる神様、今日の上福岡教会の礼拝をお与えてくださり感謝いたします。今日聞いた御言葉を心に留めて、人生を180度展開する信仰の道を選ぶことができますように、お導き下さい。与えられている仕事、生活が神様によって支えられますように。

主イエス・キリストのお名前を通しておささげします。アーメン

説教に用いられる聖書箇所

エゼキエル34章11~16節(p1352)

まことに、主なる神はこう言われる。見よ、わたしは自ら自分の群れを探し出し、彼らの世話をする。12 牧者が、自分の羊がちりぢりになっているときに、その群れを探すように、わたしは自分の羊を探す。わたしは雲と密雲の日に散らされた群れを、すべての場所から救い出す。13 わたしは彼らを諸国の民の中から連れ出し、諸国から集めて彼らの土地に導く。わたしはイスラエルの山々、谷間、また居住地で彼らを養う。14 わたしは良い牧草地で彼らを養う。イスラエルの高い山々は彼らの牧場となる。彼らはイスラエルの山々で憩い、良い牧場と肥沃な牧草地で養われる。15 わたしがわたしの群れを養い、憩わせる、と主なる神は言われる。16 わたしは失われたものを尋ね求め、追われたものを連れ戻し、傷ついたものを包み、弱ったものを強くする。しかし、肥えたものと強いものを滅ぼす。わたしは公平をもって彼らを養う。

ルカによる福音書 15 章1~7節(p138)

◆「見失った羊」のたとえ

徴税人や罪人が皆、話を聞こうとしてイエスに近寄って来た。すると、ファリサイ派の人々や律法学者たちは、「この人は罪人たちを迎えて、食事まで一緒にしている」と不平を言いだした。そこで、イエスは次のたとえを話された。「あなたがたの中に、百匹の羊を持っている人がいて、その一匹を見失ったとすれば、九十九匹を野原に残して、見失った一匹を見つけ出すまで捜し回らないだろうか。そして、見つけたら、喜んでその羊を担いで、家に帰り、友達や近所の人々を呼び集めて、『見失った羊を見つけたので、一緒に喜んでください』と言うであろう。

言うておくが、このように、悔い改める一人の罪人については、悔い改める必要のない九十九人の正しい人についてよりも大きな喜びが天にある。」